川越再発見15

川越の湧き水

広報室 Tel 224-5495

小江戸川越検定の設問からテーマを選び、まちの魅力を紹介します。

設問 名細（なぐわし）小学校隣の湧き水が出ている神社名は？

①稲荷　②八幡　③尾崎　④三芳野

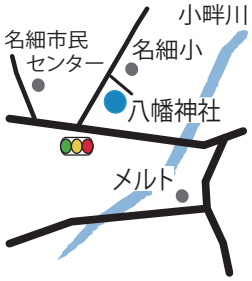
荒川低地と入間台地・武蔵野台地が接するため、かつては、百五十六か所もの湧き水があった川越。しかし、現在は地表がアスファルトやコンクリートで覆われたため、市内で確認できる湧き水は二十六か所です。地中から湧き出る様子は、神秘的で人々の心をなごませてくれます。

名細小学校隣の八幡神社にある湧き水。昔、周辺は水田が多く、この湧き水が利用されていました。近くで田植えをしていた人は「道路工事をしたときにしばらく水が途絶えたけど、昔から水量は変わらないよ」と教えてくれました。

時が流れ、周囲に家や道路ができても、変わらぬ風景を作り出す湧き水。これからも大切に守っていきたいものです。

答え②

こんこんと湧き出る水は、1日に約180㎥。2日で小学校のプールがいっぱいになります



そら豆

世界最古の農作物のひとつで、原産地は北アフリカからカスピ海沿岸などといわれています。5月から6月が旬で、初夏の青空に向かってまっすぐに伸びるので「空豆（そらまめ）」という名前が付けられたそうです。また、さやが蚕（かいこ）の作る繭（まゆ）に似ているので「蚕豆（そらまめ）」とも書きます。

上に向いたさやが、豆の重みで下を向くと食べごろ

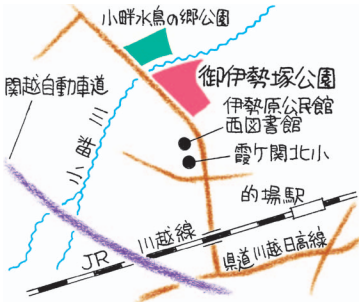
タンパク質、糖質、ビタミンB1、B2、Cなどのほか、カリウム、鉄、銅などのミネラル類も含まれています。完熟したものは煮豆や甘納豆などに使われますが、未熟な豆を塩ゆでにするのが一般的。空気に触れると鮮度が落ちるので、さやから出したら、すぐにゆでましょう。市内でも栽培されていて、一部は農産物直売所に出荷されています。「連作ができないので毎年場所を変えて栽培しています。収穫時期を見極める難さがありますね。子供が好きなので栽培しています。」と、さやが長く実が大きい「一寸そら豆」を栽培する吉沢秀和（よしざわひでかず）さん（43歳・中福）。

大きなさやに豆が3～4個入っています

見た目も迫力があり、おつまみにもおいしいそら豆。この夏、是非召し上がりませんか。

表紙の写真

御伊勢塚公園にある噴水の水音に誘われたように、女の子を抱いたお母さんと男の子が歩いてきました。



編集後記 どんぐり

表紙撮影に行ったときのこと。ひょうたん型の池には噴水が二つ。広がる水しぶきが、まるでアサガオの花びらのようです。電気の無駄遣いでは？と思いましたが、実はこの噴水、池の水を空気に触れさせ、循環させることで、赤潮の発生を予防する役割があります。

しばらく見ていると心地よい風が……。噴水を抜ける風は天然のクーラー。散歩している人たちは、ひと時の涼を楽しんでいるようでした。

広報川越1248

■発行日／平成23年6月10日（毎月10日・25日発行）
■発　行／川越市　〒350－8601埼玉県川越市元町1丁目3－1　http://www.city.kawagoe.saitama.jp/
■編　集／広報室 Tel 049－224－8811（代表） Fax 049－225－2171
■印　刷／㈲新広社

この印刷物は、印刷用の紙へ、リサイクルできます。 リサイクル適性Ⓐ